

用語解説

◎ジェンダー

生物学上の性差に対し、社会的・文化的につくられた性差をいう。一般的な『男らしさ』『女らしさ』といったイメージは、男女に固有のものではなく、時代や社会によって後天的に形成されたもので、生活、職業、学習などの選択の可能性が性別によって制約されたり、片方の性に特定の役割が集中するなどの原因になっている。こうした固定的なイメージや性別役割分担意識をジェンダー・バイアスといい、このような固定観念を払拭することをジェンダー・フリーという。

◎女性問題

女性が人間として男性と平等に生きていく上で障害となっている諸問題のこと。女性が女性であるという理由で生き方や役割が規制され、経済的、社会的、文化的に差別されたり、不利益な取り扱いを受け、持っている能力を十分に発揮できない問題状況をいう。

◎男女共同参画社会

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保されることにより、男女が均等に政治的・経済的・社会的・文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会。



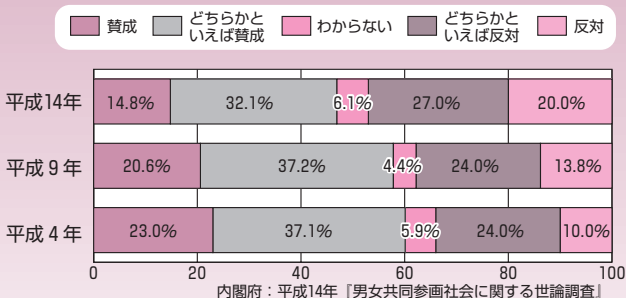
▲『登別市男女共同参画基本計画（のぼりべつ・はあもにいプラン21）』ダイジェスト版

- 実現
2. 男女があらゆる分野に参画することができる社会の実現
  3. 雇用等の分野における男女平等の実現
  4. 健康的な生活を生涯にわたって送られる社会の実現
- の4つの柱に沿った施策を推進しており、男女平等をもとに、心を合わせ、力を合わせ、助け合って男女が共同で参画し、男女が平等な社会づくりを推進する指針となるものです。

## 男と女のデータ

『ジェンダー』は、私たちの生活や意識の中に知らず知らずのうちに入り込んでいます。「当たり前だと思っていた、思われていた。でも、それってなんか変」そのことに気づき始めている人も多くなってきました。あなたはどうか？

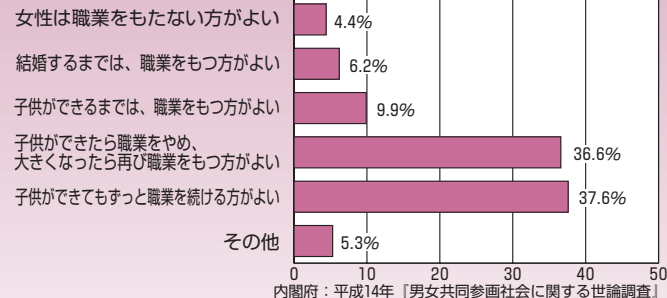
Q 『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について



平成14年の調査では賛否が約47%と同率で、平成9年の調査と比較すると、賛成は約11%減少して、5割を下回りました。

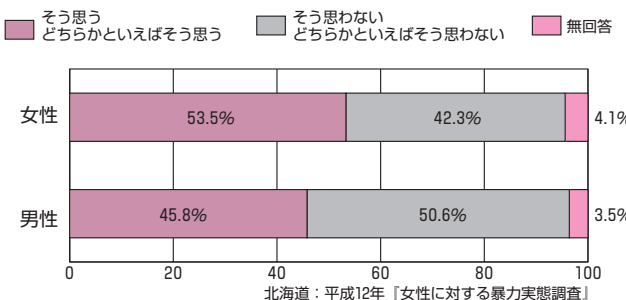
賛成する人の割合が低下し、反対する人の割合が上昇していることは、男女の役割分担よりも共同参画の意識が少しずつ浸透していることがわかります。

Q 女性が職業をもつことについて



選択肢を大別すると、『働くべきではない』『家庭や育児責任を担っていないときは働くべき』『働くべき』の3つ。80%以上の人びとが女性も働くべきだと考えています。法律の整備や社会的な制度が整うことで、『子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい』の数値は上昇していくものと考えられます。

Q 女性は自分のことより男性（夫・パートナー）のことを優先して考える方がよい



『女性は男性を優先する』に『そう思う』と多く答えるのは当の女性であり、『リーダーシップをとるのは男性』に『そう思う』と多く答えるのは当の男性。このことから、『ジェンダー』に自分を縛り付けているのは、まさに自分自身のこだわりにあることがわかります。

Q 男性（夫・パートナー）がリーダーシップをとるのが当たり前

